

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500117		
法人名	医療法人親貴会		
事業所名	グループホームもぜ		
所在地	鹿児島県いちき串木野市春日町24番地		
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成25年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会に加入し、地域行事に参加や当施設での行事等にも参加して頂いている。また、当施設で行っているペットボトルキャップ募金のために週2回の地域内でのリサイクルの際には、地域の方々にご協力を頂くなど、地域との交流を行っている。医療法人を母体とし、医療機関、老人保健施設、小規模多機能施設等と合同で行事や研修を行い、サービスの質の向上に努めている。日常生活の中では、入居者の方々が何を求めているのか意見を聞き、観察を行い、趣味や特技等を活かし、生き甲斐を見出して行けるよう支援している。また、個別での特別な日(わがままDAY)を設け、個別的にケアを行えるよう工夫し、生活に楽しみが持てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

串木野駅近くに位置し、買い物や交通などの利便性のよい住宅地にホームはある。利用者がお盆ふきをしたり、洗濯物をたたむ姿を見られる。職員は、利用者の力量に合わせて、対応している。8名の男性職員が所属しており、心強く外出時など安心して支援を受けることができる。全返答の家族アンケートでは、利用者や利用者の家族の思いに添えるように取り組んでいることや職員が親切に対応して下さるなど感謝の聲が寄せられている。年1回のわがままデイでは、利用者の希みを個別に叶えている。ホームは、下校時の子供見守り隊やペットボトルキャップ募金の取り組みを地域住民と共同するなど今後も地域との親交を深めようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員にて、理念の作成を行ない、施設内に掲示している。理念を念頭に置き、日々のケアを実践している。	ホームは、「その人らしい姿」「家庭的明るい雰囲気」「地域との交流」などを含んだ理念を平成23年に作り変えている。各利用者の性格や生活歴を探りながら支援するなど理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、公民館行事等にも参加している。又、ホーム内の防火訓練等にも参加して頂き、災害時等へも協力が得られるよう交流を行なっている。	ホームは、敬老会や夏祭りなどの地域行事への参加や地域の清掃活動に職員が参加するなど交流を図っている。クリスマス会や餅つき大会などのホーム行事には地域住民の参加もあり、さらに交流を深めようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館行事等に参加したり、児童の下校時の子供見守り隊を行なっている。施設行事へも参加して頂き、身近に感じて頂けるよう日々の生活を送って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長や公民館の方々、家族の代表、行政職員、包括の方々の参加、協力を得て年6回開催している。行事の内容等の報告を行ない、会議を通じ、サービス向上に努めている。	ホームは、行事予定・報告や出席者の意見などの内容を議事録されている。ホームは、地域へ回覧する便りの中に介護の知識や情報を盛り込むなどサービス向上に繋げている。今後、運営推進委員の増員を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの運営等について当該担当の方より助言を頂いたり、相談を行なう等、積極的に連携を図っている。	ホームは、市担当者へ認定更新時や介護業務の相談確認などをし、運営向上に役立っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議や入居希望者の問い合わせをするなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での身体拘束に関する勉強会を開催したり、研修に参加することにより、研修内容を報告、検討を行なうことで、身体拘束に対する知識を深めている。日々のケアにおいて、職員間での連携を図り、ケアの向上に努めている。	ホームは、年1回法人内研修や毎月勉強会を行い、身体拘束の具体的な行為についてしっかりと理解している。職員の都合で行動を制限しないなど自由な暮らしを実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止についての勉強会を実施し、また、勉強会や研修へ参加し、日々のケアの中で虐待防止への意識の向上に努めている。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、知識を深め、入居者やご家族個々の状態に応じ、情報提供を行ない支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人やご家族と面会を行ない、現状や希望を周知・把握し、他職種との協議検討を行ない、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での意見や要望を、聞く事の出来る体制をつくり、ご家族への状態報告、また、近況の説明を行なっている。担当者会議等で意見や要望を組みとり、日々の生活で生かせるよう会話を大切にしている。	ホームは、年4回のもぜ便りや面会時の他、担当職員による利用者の心身状況を年2回書面で家族に報告している。又、年1回、8割程度の参加のある家族会では、アンケートを実施し、運営やケアに反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議やフロア会議を実施し、また、ミニカンファなど意見交換の出来る場を設けている。また、申し送りノートにて、個別の意見や提案等を行ない、他スタッフと情報共有し、ケアの実践を行なっている。	管理者は、毎月の全体会議やフロア会議時に職員からの多くの意見を聞ける環境にある。買い物へ出かける回数を増やすなど運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、やりがいを持って仕事に取り組めるよう、全スタッフを交え意見交換などを行ない、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や勉強会を行なっており、全スタッフが参加出来るように配慮している。研修に参加したスタッフは、会議で発表し他の職員へも知識や実践を共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの職員がグループホームの研修会等に参加し、意見交換が出来る環境や機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族からの生活状況や思いを受け止め耳を傾け、信頼関係を築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの不安なことや要望を理解し、受け止める努力を行ない、必要に応じて、随時ご家族との話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを伺い、理解し、主治医や作業療法士また、他業種の方々と連携を図り、本人に必要な支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることに目を向け、職員と共に行ない、学ばせて頂き、生き生きとした生活をしてに、共に笑い、考え悩み、信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や電話などで、本人の日頃の様子を伝え、ご家族の意見、意向、悩みなどを聞き、共に考え、相談しながら、本人と共に、支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に外出や外泊を依頼し、可能な限り実施して頂いている。自宅や墓参りなど外出を行ったり、親戚や友人が気軽に来て頂ける環境を整えている。また、利用者同士での親しい関係を保てるよう取り組んでいる。	馴染みの人や場については、入居時や日々のケアで把握している。ホームは、親戚の営んでいる理髪店を利用するなど個別に支援し、介護生活記録によりよく記載している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の個性を把握し、入居者同士で出来るレクリエーションを取り入れている。また、お茶の時間などに入居者間でのお話を通じ、良好な関係を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気や怪我などで入院された際には、お見舞いや面会に伺っている。お亡くなりになられた際には、葬儀への参列を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりのこれまでの暮らし方、希望、ご家族からの話を伺い、入居者の意向や要望に添えるよう支援している。	職員は、入浴時やゆっくりとくつろいでいる時などに本人の思いや意向を把握し、本人の意向を尊重した支援ができるように努めている。職員は、申し送り帳などで情報を共有し、ケアにあたっている。	職員は、さらに利用者の発語を含んだ記録を残し、意向を把握することでケアに反映されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの情報等により、生活環境やサービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にしながら入居者の個々に合った日々を過ごして頂き、その方の情報や状態を介護記録などを活用し、スタッフ間で現状把握の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議や担当者会議、ご家族との話し合い、意見などをもとに、介護計画が作成できるようスタッフ全員で話し合い検討している。	介護計画は、利用者や家族、主治医の意見を踏まえ作成されている。サービス担当者会議には、家族の出席もあり、サービス内容を共有している。又、計画作成担当者は、3ヶ月毎に職員の意見を取り入れ、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事を介護記録へ記入し、特変などのあった入居者については、スタッフ間の情報共有を密に行なう。また、記録の記載については確実に行なうよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や買い物、また、病院への受診など、スタッフも一緒に同行するなど、柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己評価	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と連絡を取り合い、公民館の行事やもぜの行事に参加して頂いている。また、公民館の子供たちにも、もぜの行事に参加して頂いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の希望により、かかりつけ医を決めている。他医療の受診が必要になった場合にはご家族へ連絡を行ない受診するように支援している。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望に添って、9割の利用者が協力病院となっている。協力病院への通院は、主にホームが支援している。又、受診結果については、変化時は家族に電話で報告する他、面会時や年2回の便りで報告している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の異変時には病院看護師へ連絡・報告を行ない、主治医の指示を頂くようにしている。常に、連絡が出来る体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はサマリーなどを記入し、入院先の病院との連絡を常に行ない状態把握に努めている。また、ご家族と連絡を取り合い情報を共有している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議などで、状態の変化がみられた際には、本人の意向、ご家族の意向を、尊重できるように話し合いを行なっている。	ホームは、重度化や終末期に向けての指針を定め、サービス担当者会議時やその状態に近づいている利用者に対して、家族に説明し、同意を貰っている。又、ホームは支援継続について医師の判断を仰ぎ、対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時の対応に備えて全職員が定期的に研修に参加している。また、施設内で勉強会を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行ない、全職員が避難経路や災害時の対応を把握し身につけている。また、災害時の連絡網を作成し、近隣住民の協力が得られるよう体制づくりをしている。	ホームは、年1回消防署の立ち合いの下、夜間想定訓練や年1回自主訓練を行っている。公民館長や主事、民生委員などの運営推進委員や法人との連携が取れるように災害時の連絡網を作成し、対応できるようにしている。 ホームは、あらゆる想定で自主訓練やシミュレーションを行うことで利用者を安全に避難誘導できることを期待します。

目次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生き立ちや性格、人格を理解把握し、その方に対し適切な声かけや対応の心掛けを行なっている。	職員は、認知症についての研修を行っている。職員は、トイレ使用時にカーテンを閉めたり、着替え時なども人から見えにくいにするなどプライバシーを損ねない接し方に努めている。今後、グループホームにおけるプライバシーのマニュアル作成や研修を予定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人のペースに職員が合わせ、無理のない行動を支援している。本人の希望を傾聴し支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、日中の外出、外泊や睡眠など一人ひとりの意思や要望を大切に、無理なく本人の希望に添うように過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、本人の着たい服を選んでいただき気持ち良く過ごして頂いている。定期的に地域の美容室の方に訪問して頂き、散髪を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや味付けなどに工夫し、利用者職員が同じテーブルにて楽しく食事をこなしている。利用者の残存機能に合わせて、下ごしらえや、テーブル拭き、下膳などを一緒にこなしている。	献立は15日分ずつ作成し、主に調理担当の職員が行っている。法人の管理栄養士が料理の味見をするなど栄養バランスの確認をしている。又、ホームは、お正月や敬老会などの行事食や利用者の誕生日には、外食するなど食を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事形態を工夫し、栄養バランスを考え、食事量や水分量を十分に摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけや誘導を行ない、義歯や歯、それぞれの方に合った口腔ケアの介助、支援を行なっている。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックし、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導を行ない、自立に向けた支援をスタッフ間で共有し、取り組んでいる。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。排泄の自立に向けて、排泄用具の検討や定期的な誘導により、失禁の回数が減るなどケアプランにより詳しく記載されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取の工夫を行なっている。また、食前の軽い運動を取り入れるなど工夫を行ない、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも、入浴できるようにし、入居者の個々に応じた入浴の支援、意思を尊重し、ゆとり入浴できるよう努めている。	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて、週2～3回の支援をしている。入浴を拒む利用者には、時間帯や職員の声かけを変えて、定期的に入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リハビリや体を動かす体操など日中の活動性をあげて頂くための工夫を行ない、1日のリズムをつくり、夜間安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を保存し、一人ひとりの服薬内容の確認を行なっている。また、臨時薬が処方された際には、受診ノート、介護記録を活用して、確実な服薬の支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし、季節ごとの行事への参加や協力の声かけを行なっている。また、ご本人の好きなものや必要なものを一緒に買い物に行くことで、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加ができるように、公民館長などから情報を頂き、計画を立案している。また、わがままDAYなどを活用し、個別での外食や買い物、お墓参りなど、ご家族の協力を頂き、行なっている。	天気に合わせて、近隣の公園を散歩したり、屋上でくつろぐなど外気に触れる支援をしている。本人の希望に応じて、ホームは、年1回誕生月にわがままデイを設け、家族と協力しながら、個別支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の生活必需品や嗜好品の確認を行ない、不足したときにその都度、一緒に買い物に行けるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときは、スタッフが電話をかけ、ご家族などと会話をして頂いている。また、文字が書ける利用者には、ご家族に年賀状を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにてゆっくりくつろいでいただける空間をつくり、居室やホールの窓を開け、外の風や暖かい日差しを取り入れ、快適な生活が送れるように努めている。	利用者が洗濯物をたたんだり、新聞を読む姿を見られる。ホールには、手づくりカレンダーや利用者と一緒に作成した七夕飾りなどの創作品を飾っており、季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを配置し、テレビを観やすく、利用者同士の会話の妨げにならないように快適に過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、大切なものなどを持ち込んでもらい安心して生活して頂けるように工夫している。	部屋の入り口には、写真と名札がある。居室には、テレビ・タンス・椅子など馴染みの物が持ち込まれている。又、利用者の身体状況等に応じて、畳を敷いて生活している利用者もあり、居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、表札を掛け、トイレや洗面所などはわかりやすく表示している。生活リハビリを行いながら、自立した生活を送って頂けるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール内の目の付くところに掲げている。全職員は、日々のケアを理念に添った支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や公民館の行事に参加している。子供見守り隊にて小学校下校時の子供たちを見守っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館行事の夏祭りや敬老会に参加し、もぎでの行事、餅つき大会には、自治会の子供たちも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、運営推進会議を開き公民館長をはじめ、行政・民生員の方々の意見を傾聴し、質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や法人の居宅の方々に疑問点などを尋ねて、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止委員会を開き、勉強会を行い、日々、実践している。また年に1回、法人内の身体拘束の研修会にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や全体会議などで虐待の理解を深め、虐待防止の意識向上に努めている。		

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、知識を深め、入居者の個々の状態に応じて情報提供を行い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族との面接を行い、現状や希望を把握し、専門的検知から入居者、家族などに十分な説明を行い、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、日常の中で必要な援助や話を聞くなどして、常に対応している。家族の意見は面会時や運営推進会議等で機会を設け、運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議とフロア会議を開き意見や提案を交換できる場を設けている。また各自情報や意見交換等が出来るように申し送りノートを活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表や各種届書等で勤務状況は、把握出来ている。法人内で年に数回、親睦会を行って職員間の親睦を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修、ホーム内の勉強会を通じて、スタッフのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やケアマネ支部会に加盟し、ネットワークづくりや研修、勉強会、懇親会などでサービスの質を向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族からの思いを把握し、信頼関係に努めている。また、本人の思いに添えられるように出来るだけ多く声掛けし、安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心してもらえるように話し合いの場を設け、ご家族との信頼関係を築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思いを聞き、職員、連携機関と十分に話し合いの上、どのような対応が必要なのか検討し、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をする中で、本人の出来ることに目を向け、のびのびと生活出来るように心掛けている。また、一緒に笑い、悩み、考え、共に生活している者として関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心して、いつでも会いに来れる雰囲気づくりや思っていること、悩んでいることを伝えて頂き考え、相談しながら共に支えていく関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	わがままDAYや個別レクを活用し、買い物や墓参り等の外出や地域の祭り等に見物を行っている。また、親戚や知人の方が気兼ねなく来訪して頂けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々を把握し、入居者同士が関わりを持ち、個々に合わせたレクリエーションを取り入れ共同生活で喜びを分かち合う体制に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた場合、見舞いや経過の情報収集を行っている。また、他界された場合は、通夜や葬儀への参列を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ひとり一人に担当をもたせ、その入居者の趣味や希望を把握し、 possible の限り支援を行い、要望に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの情報等により馴染みの暮らし方や生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を大切に、個々に合った環境で過ごして頂いている。入居者ひとり一人の心身状態や残存機能等の把握を介護記録等で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にフロア会議、担当者会議を行うことで、本人やご家族の意見・要望について話し合いやより良い、介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護生活記録に1日の状態や家族からの連絡、面会、病院受診など記録し、特記事項がある場合は、申し送りを密に行い、情報共有し、実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊が自由に行えるよう支援し、買い物や地域行事への参加は、様々な要望に対応出来るように取り組んでいる。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老会などの公民館行事や、もげでの行事を通して地域の方々や子供たちとの交流が図れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を尊重し、納得の得た医療機関を受診できるように支援している。また、必要に応じて職員も付き添いを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護職員に相談出来る連絡体制が整っており、入居者の急変に気付いたときは、状態報告を行い、適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、今までの状態等をサマリーで病院に提出し、その後も病院に出向き、情報収集し、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態が良い段階から、ご家族と十分な話し合いを行い、施設で出来ることを説明し、希望を取り入れて、より良い支援が出来るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間を問わず、急変時や事故発生時の場合の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、内1回は、地域の方々や家族の方に参加して頂いている。緊急連絡網にも地域の方々も入って頂き、協力体制を築いている。		

目次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人に応じた声かけと対応で、気持ち良く過ごして頂けるよう努めている。また、プライドを傷つけないよう、常に言葉使いにも気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに耳を傾け、自分の気持ちを言葉に出して伝えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・睡眠・入浴・外出等、ひとり一人の意見を大切に無理せず、本人のペースで過ごせるよう希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、着たい服を選んで頂き、日中を気持ちよく過ごして頂く。行きつけの美容室に行ったり、地域美容室の方に来て頂き、散髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや栄養バランスを考えると共に盛り付けや味つけを工夫している。お盆拭きや野菜の下ごしらえ等、一緒にして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに合った食事形態で摂取しやすいように工夫し、栄養バランスや水分量を一日を通じて確保して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けを行って義歯・自歯、それぞれに合った力量で口腔ケアを行っている。		

目 次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にのっとり、入居者の方々の排泄パターン、習慣を把握し、声掛け・誘導を行い、自立に向けた支援を職員間で情報共有し、取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取の内容に工夫を行っている。また、毎食前には体操を取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けの様子見ながら行い、入浴中に、たくさんお話をしたり、湯舟に長く浸かりたい方には、体調に気を付けながら、希望に添えるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性をあげて頂くための工夫や日中、夜間、休みたいときは、自由に休んで頂き、安心して安眠・休息して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等の説明書を保管し、内服内容を把握し、服薬支援している。毎食後の内服時に氏名・日付等の確認をして誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを取り入れ、それぞれの役割を見出し、支援している。また、本人の楽しみ、気分転換等を図り、生き甲斐を見い出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や花壇の草取り、ドライブ等で戸外に出かけるように支援している。また、わがままDAY等を活用して、ご家族のご協力を頂きながら外出や買い物お墓参り等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の生活必需品等の確認を行い、不足しているときや欲しい物があるときに職員と一緒に買い物に行けるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より家族への電話希望があった時は、こちらより電話して、話をして頂いたり、手紙や年賀状を書いてもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるようソファを3ヶ所に置いてある。また、四季折々の花を飾ったり、壁面などを作成して、季節感を出して行くよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろげるように努めたり、ホールのテーブル席でも過ごしやすいように一人ひとりに合った椅子を準備し、居場所の確保を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具、大切なもの等を持ち込んでもらっている。また、本人の状態や希望に合わせ、使いやすいベッドや畳にて安心して過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内、トイレ、浴室等、それぞれに手すりを設置し安心・安全に行動できる環境を整えている。また、生活リハビリを行いながら、自立した生活を送って頂けるように取り組んでいる。		